



疾病の成り立ちと回復の促進③ 臨床微生物・医動物

ムービータイトル	サムネイル	サマリー	教科書該当箇所
微生物の大きさ (2分30秒)		微生物・医動物はその大きさも種類によってさまざまで、肉眼で観察することができる寄生蠕虫などから光学顕微鏡で観察可能な原虫、電子顕微鏡でなければ観察できないウイルスなどがある。	1章 微生物・医動物とは 1 臨床微生物・医動物の特徴
常在微生物 (2分5秒)		ヒトの腸管内、皮膚表面、鼻腔などにはおよそ100兆個の細菌が存在している。これを常在微生物と呼ぶ。常在微生物を視覚的に確認するために、ハンドスタンプ法を用いて培養・観察する。	1章 微生物・医動物とは 2 身の回りの微生物
細菌性食中毒の予防 (2分35秒)		細菌性の食中毒を予防するためには、食品に菌を寄せ付けないことや、菌を増殖させないことが重要である。食品中の細菌の増殖について実験を行う。	2章 宿主の臓器・組織別にみる感染症と病原体 ■ 3 消化器系感染症 2 食中毒の予防・治療
ヒト免疫不全ウイルス HIV (Human immunodeficiency virus) (48秒)		エイズの病原ウイルスである HIV ウィルスについて、その構造や感染経路について説明する。	2章 宿主の臓器・組織別にみる感染症と病原体 ■ 6 性感染症 ヒト免疫不全ウイルス
滅菌手袋の着脱 (2分48秒)		手袋の外側に触れないよう注意しながら装着し、両手を合わせて指先をフィットさせる。手袋を外す場合も外側に触れないようにして脱ぐ。	3章 宿主の因子が影響する感染症と病原体 ■ 9 血管内カテーテル関連血流感染症 1 血管内カテーテル関連血流感染症の起因菌と予防
手洗い (3分18秒)		石けんによる手洗い、アルコール製剤による手指消毒の方法を解説する。	4章 感染症の分類と感染防御機構 ■ 1 感染症と臨床微生物・医動物 3 感染成立の3要因と感染予防の基本
感染症 ～冷静な対応のために (12分50秒)		医療従事者である限り、感染症に罹患するリスクは避けて通れない。感染症法における感染症の分類と対策を確認するとともに、医療従事者が感染症とどう向き合うべきか考えるべく、西アフリカのリベリアでエボラ出血熱患者の対応にあたった感染症の専門家、古宮伸洋医師（日本赤十字社和歌山医療センター）に話を聞いた。	4章 感染症の分類と感染防御機構 ■ 1 感染症と臨床微生物・医動物 3 感染成立の3要因と感染予防の基本

ムービータイトル	サムネイル	サマリー	教科書該当箇所
<p>尿検査の実際 (3分25秒)</p> <p>🔊</p>		<p>5段階の血尿スケールの評価や尿沈渣検査の方法を紹介。さらに細胞診の判定基準なども解説する。</p>	<p>6章 感染症の検査・治療</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1 感染症検査と臨床微生物・医動物 2 原因微生物・医動物を検出する検査
<p>薬剤感受性検査 (1分45秒)</p> <p>🔊</p>		<p>MRSAなどの薬剤耐性菌が問題となっている。薬剤耐性菌の増殖を防ぐには抗菌薬の適正な使用が重要である。ディスク法を用いた薬剤感受性検査について解説する。</p>	<p>6章 感染症の検査・治療</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 2 感染症の治療 1 抗感染症薬